

「きらきら光る！よいとこ自慢の観光振興」プラン

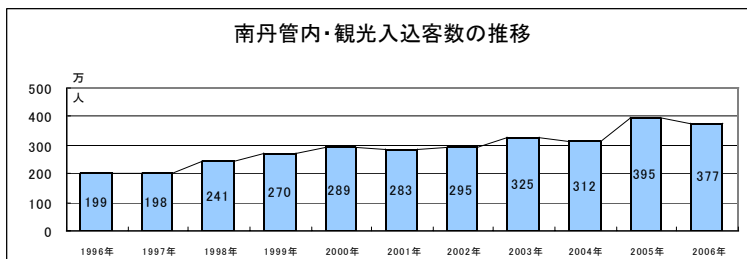
ゆとりと豊かさが重視される現代において、観光は新しい成長産業となることが期待されています。南丹地域には、大都市近郊の「田舎」として、自然環境、農山村などのやすらぎ空間が残されています。西南部では都市化が進んでいますが、古くからの街道の要衝として、歴史・伝説・社寺などの文化資産が豊富です。

住民のみなさんや民間事業者、商工団体、市町との協働・連携により、これらの多様な地域資源を活用して、魅力ある観光の地域づくりと関連産業の振興を図っていきます。

1 南丹地域の現状と課題

● 観光客数は増加傾向

南丹地域には全国的に知られる保津川下り、湯の花温泉、瑠璃溪高原（るり溪温泉）などの観光資源があり、近年では「田舎の原風景」として、美山のかやぶきの里、山村体験ツアーなどが注目されています。観光客数は1996（平成8）年の199万人から2006（平成18）年には377万人と89%増加しています。

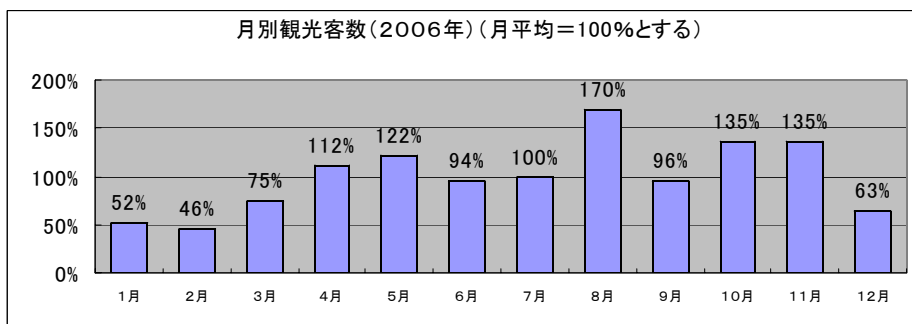


(資料：府商工部「京都府観光入込客数調査報告書」)(※旧京北町分はデータから除いています)

地域の魅力は多様で複合的なものですが、南丹地域という空間が人々をひきつける魅力は何かを明確にし、地域の観光コンセプトを確立していく必要があります。

● 夏・晩秋に集中する観光客

観光客は季節的には夏（8月）、晩秋（10・11月）に集中しています。自然探勝やアウトドア、イベントなどともなう観光が中心で、大半が京阪神近郊からの日帰り客となっています。



(資料：府商工部「京都府観光入込客数調査報告書」)

に、各観光拠点の連携を強め、観光の担い手づくり、資源・施設等の有機的活用により、持続可能な新しい観光を生み出していくことが課題となっています。

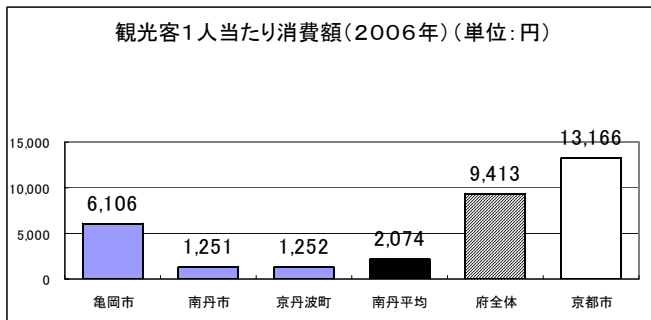
最近の観光ニーズは「観る観光」から、自然学習、農村体験、地域の文化・産業などを学び、参加・体験する観光へと変化しています。

地域資源の価値を再発見し、四季を通じた

魅力を創造するとともに

● 観光消費額の増加が課題

南丹地域の観光消費額は年間約78億円です（2006年）。観光客1人当たりの消費額は2,074円で、府全体の消費額9,413円と比べ、温泉宿泊中心の亀岡市以外では特に低い状況にあります。



観光消費額の増加のためには、多様な南丹地域の魅力を効果的・積極的に発信するとともに、観光の担い手の育成を通じて、新しい観光資源を創造していく必要があります。

このため、2005（平成17）年度から異業種交流による観光新商品の開発支援（「南丹コラボ塾事業」）やホームページでの観光旬情報（花、グルメ、カルチャーなど）

の発信などを通じて、観光振興の気運づくりを行ってきました。今後は、これらの取組を発展させ、地域特性を活かしたツーリズムを推進し、地域の活性化につなげていく必要があります。

2 プランの目標

目標1：きらりと光る南丹・広域観光推進体制づくり

① 広域観光の推進母体づくり

◇ 広域で地域の観光イメージを高め、人的・物的資源を活用していくためには、広域観光を推進する母体づくりと、南丹ならではの資源の可能性を引き出す創造性あふれる取組が必要です。

- ・ 地域のみなさん、観光事業者、商工団体、市町など、多様な主体の参画と協働による広域観光を推進する母体づくり
- ・ 観光新商品の開発をはじめ、資源の発掘・活用の積極的な推進による、観光振興の気運の盛り上げを進めます。

② 地域の観光の担い手づくり

◇ 持続可能な観光を実現するためには、地域の人々が主導的に展開する自律的観光を進めることが大切です。そのためには地域で観光を支える担い手の育成が不可欠です。

- ・ 観光ビジネスの担い手や体験型観光リーダーの育成を進めます。

③ 広域観光情報の発信

◇ インターネットの利用が広がる今日、ITをうまく活用しながら、四季折々の観光情報などをタイムリーに発信していくことが大切になっています。

- ・ 市町・JRなどと連携した効果的な情報発信と情報内容の充実を進めます。

④ 南丹ファンクラブ（仮称）の設置・運営

◇ 南丹の良さを発見・発信するためには、地域外の人々との交流を深めることが効果的です。

- ・ 地域外の人々との交流促進とサポーターづくりを目的とした「南丹ファンクラブ」（仮称）の組織化を進めます。

目標2：地域資源の発掘と創造（南丹観光モデル事業）

◇ 地域に埋もれた観光資源（人的・物的）を発掘するとともに、それらを有機的に連携させて新たな観光を創造する取組を地域に芽生えさせるためのモデル事業を推進します。

- ・異業種交流等による観光新商品の開発
- ・体験・滞在型観光ツアー商品の開発
- ・地元食材を活用した料理等「食のブランド力」強化

を進めます。

3 体系図

1 きらりと光る南丹・広域観光推進体制づくり

①広域観光の推進母体づくり

- 地域のみなさん、観光事業者、市町等多様な主体の参画と協働による広域観光推進母体づくり

②地域の観光の担い手づくり

- 観光ビジネスの担い手や体験型観光リーダーの育成による地域の自律的観光を推進する担い手づくり

③広域観光情報の発信

- ITを活用したタイムリーな観光旬情報の発信
- 市町・JRなどと連携した効果的な観光情報の発信

④南丹ファンクラブ（仮称）の設置・運営

- 地域外の人々との交流とサポーターづくり

2 地域資源の発掘と創造（南丹観光モデル事業）

- 異業種交流による新観光商品開発、体験・滞在型ツアー商品の開発、食のブランド力強化など、モデル事業の推進